

2018 9/29

【第三種郵便物認可】

吉野家ホールディングスで22年間、トップを務めた安部修仁氏(65)が8月末に取締役を外れ、経営の一線は同氏を長年支えてきた役員を選ばず、自らより一回り以上若い40歳代中心の世代をそろえた。その中核となる3人の生え抜き取締役の経歴が興味深い。

ホールディングス社長で牛丼事業会社、吉野家の社長を兼務する河村泰貴氏(45)は広島県立高校が、取締役でステーキチェーン、どん社長の長岡祐樹氏(50)は大阪市立中学校が最終学歴だ。やはり取締役でうどんチェーン、はなまる社長の成瀬哲也氏(47)は中京大学中退。高卒でアルバイトから社長になった安部氏と同様、いずれも大

編集委員  
中村直文

## 経営の視点

### 吉野家の「非学歴体質」

学を出していない。中でも長っていた店のトラブル対策岡氏の半生は波乱に富む。にも腕を振るった。熱心さ若い頃、「やんちゃ」だが認められて複数の店を監督するスーパーバイザーに2度中退している。1度目昇格したのもつかの間、自中退後は北海道恵庭市で分の不注意で交通事故を起牧場に住み込みで働いた

### 「やんちゃ」の力が企業救う

り、地元の大阪で喫茶店を運営したりした。定時制の高校に入り直したが、吉野家のアルバイトを始めると「店の運営を自由に任せられるのが面白くて再び中退。1985年に21歳で社員になった。大阪市内の不振店を立て直し、しばしば「柄の悪い人たちから因縁をつけられ

テコ入れだけでなく、東海・北陸地域での営業時代にダメ社員の烙印(らくいん)を押された従業員を再教育なども担当。本社では人事部で業務規定の見直しを行い。むしろ「普通に有名大を出身者を増やしたい」と思っている。でも実力本位で役員を決めたら結果的にこ

もおかしくない状況だったら、あきらめる」と安部氏に言わしめるほどだ。長岡氏は今夏から元受刑者の雇用に始めていた。河村氏も吉野家が買収したときは赤字が続いていた。成瀬氏はカレーうどん専門店を立ち上げるなど、新規事業に定評がある。安部氏は3人とも頑固で、なDNAが息づいている。

吉野家は80年に会社更生法の適用を申請し一度は破綻したが、上場を果たした再生企業だ。その後も米国产牛肉の輸入停止など、会社の存続に関わる難局は続いた。「成功も失敗も本人が思うほど周囲は覚えていないもの」(安部氏)。経営